

## 「芸備線 庄原市・新見市エリアの利用促進等に関する検討会議」

### 第4回 会議要旨

- 1 日 時 令和4年5月11日（水）13:00～14:40
- 2 場 所 新見市新見文化交流館（まなび広場にいみ）小ホール
- 3 出席者 広島県 地域政策局長  
岡山県 県民生活部長  
庄原市 事務担当副市長  
新見市 副市長  
JR西日本 広島支社 副支社長  
〃 岡山支社 副支社長  
※各団体の実務担当部署から、所属長及び担当者が同席
- 4 内容
  - (1) 令和4年度の体制について
  - (2) 第3回検討会議の振り返り
  - (3) 各構成員による発表
    - ①広島県域に係る取組
    - ②岡山県域に係る取組
  - (3) 意見交換
  - (4) 第5回検討会議に向けて
- 5 意見交換要旨
  - 広島県
    - ・ JRをはじめ沿線自治体には利用促進に協力いただき感謝する。
    - ・ 令和3年度の実施状況とその評価を聞いて、改めて芸備線の利用促進の課題を深く認識するとともに、地域住民や交通事業者をはじめ企業の皆様と、一体になって議論していくことが重要だと考えている。
    - ・ 今年度は、調査エリアを拡大して域外人流の調査を行うことも検討しており、実施時には、庄原市が新たに取り組むインバウンドなどの観光誘客に向けた「観光プロダクト開発」と効果的な連動が図れるように取り組んでいきたい。
    - ・ 将来的な日常利用への定着の可能性を見極めていく段階にあることから、各利用促進施策はコロナ禍後を踏まえた長期的な展望に立って取り組むべきだと考えている。

#### ○庄原市

- ・ J R、関係自治体と連携したことで、広域的な利用促進の取組や、臨時増便による各種取組ができたことに感謝する。
- ・ これまでの取組が、利用促進や市民の機運醸成につながったことは成果であると実感している。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止した事業や十分な成果に結びつかない取組もあった。
- ・ J Rと連携し、日常利用の増加を図ることとしているが、日常利用の転換が市民生活に根付くまでには期間を要するため、継続した取り組みを行うことが重要である。
- ・ 今年度から新たに取組む「観光プロダクト開発」は、観光客誘引に向けて、これまでにない新たなサービスの提供を行うもので、利用促進及び地域活性化に重要な役割を果たすものであると考えており、今後これらの取組の成果を見極めていく必要がある。
- ・ 引き続き、利用促進に取り組んでいくこととしているため、J R及び関係自治体の皆様の連携・協力をお願いする。

#### ○岡山県

- ・ 各構成員からの取組成果の発表を聞き、少しずつではあるが着実に効果が表れてきていると感じた。
- ・ 交通体系の見直しや各種啓発活動により、地域の方々の公共交通利用に対する機運醸成が図られたことや、地域外の方々にも芸備線に関心を持ってもらえたことは大変重要であり、今後の地域公共交通のさらなる活性化につながるものと考えている。
- ・ 引き続き、関係者と連携を図りながら、利用促進に取り組んでいきたい。

#### ○新見市

- ・ 利用促進の取組として、二次交通の改善と官民連携組織を中心に実施してきたことにより、少しずつ効果が表れ始めたと考えている。
- ・ 令和4年度では、新見市鉄道利用促進協議会の活動を強化するとともに、利用促進に関する取組の充実を図る。
- ・ 今後も、市民や関係者と連携を図りながら、利便性の向上や持続可能な交通体系を目指すとともに、利用促進に取り組んでいく。

#### ○J R西日本広島支社

- ・ 利用促進について、行政・地域の皆様のご尽力に感謝する。
- ・ 地域の皆様の行動の大半である地域内移動を如何にして鉄道を含めた公共交通の利用につなげるかが大切である。

- ・ 今年度実施する I C の活用やバスとの連携などの取組を通じ、沿線地域の公共交通に対する潜在的なニーズを把握しながら、鉄道を含めた公共交通の利用に繋げていく必要がある。
- ・ 広域的な観点においては、昨年度を取組を継承し、より地域の経済に寄与する取組に発展させていく必要がある。また、地域の活力を生み出すには関係人口の創出という視点も欠かせない。
- ・ 地域の皆さまと課題を共有して地域の公共交通について議論することは重要なことであり、利用状況や沿線の皆さまの移動実態について共有できている本検討会議は非常に貴重な場である。引き続き、地域の活性化に向けてより連携を深めてまいりたい。

#### ○ J R 西日本岡山支社

- ・ 芸備線の厳しい状況への理解と、利用促進への取組に感謝する。
- ・ 地域外からの利用に成果があった一方で、地域の足としての利用には十分に結びついておらず、利用の減少に歯止めがかかっていない状況である。
- ・ 沿線住民の多くは地域内での移動であることが明確になっていることから、地域内の移動サービスを確保し、地域の方に利用していただくことが大切である。
- ・ 大量輸送機関としての鉄道の特性を十分に発揮できておらず、地域のお役に立っていない状況のため、特定の前提を置かずに、将来の地域公共交通の姿についても速やかに議論を開始したい。
- ・ 地域のまちづくりや活力に満ちた地域社会の実現に向け、引き続き連携をお願いする。

#### 6 第5回検討会議に向けて

- ・ J R からの意見（利用促進にとどまらず、将来の地域公共交通の姿についても話し合いたい）の取り扱いを含め、次回の検討会議については、幹事会で調整する。

以 上